



安全に渡る



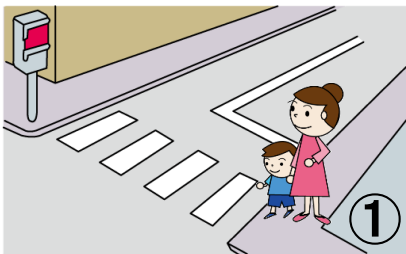
保護者をはじめ、まわりの大人の行動が、子どもの行動に大きな影響を与えます。保護者自身が常に正しい手本を示しながら、お子さんが道路を安全に横断できるように声かけしましょう。

信号や横断歩道から渡る

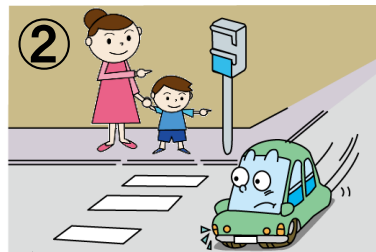
交通安全施設があれば、必ず利用しましょう。自宅近くの信号や横断歩道等を安全に利用できるよう、実際の道路で具体的に指導しましょう。



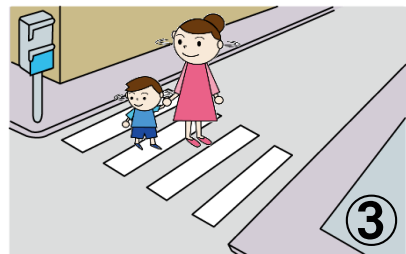
教えましょう！安全な渡り方



① 立ち止まって信号の色を確認しましょう。



② 信号が青になってもすぐに渡り出さず、車が止まったのを確認しましょう



③ 渡っているときも、右や左から曲がってくる車が来ないか、注意しましょう。



- 渡ることができるのは青信号の時だけ
- 青信号でも曲がってくる車があることを教えましょう。



雨の日の安全



雨の日は、親も子どもも傘をさすため手をつなぐのが難しく、また、いざというときに機敏な行動がとりにくいものです。特に雨の日は、「時間と心」にゆとりを持って行動しましょう。

傘のさし方

～雨の日の服装・持ち物のポイント～

まわりがよく見えるよう、傘は両手でまっすぐに持ちましょう。

黄色などの目立つ色（反射材も活用）

レインコートのフードは、子どもの視界や音を遮る場合があるので注意しましょう。

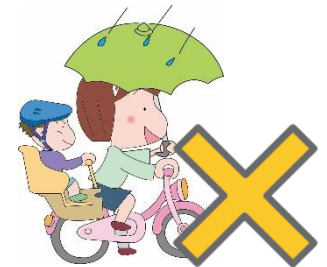
荷物は小さくまとめて、手に持たず身につけましょう。

サイズに合った滑らない靴



傘さし運転は禁止！

自転車に子どもを乗せて、傘さし運転…大変危険です！傘さし運転は禁止されています。親として、正しいお手本を示しましょう。



雨の日はドライバーも悪条件が重なります

視界が狭く見えにくくなったり、ブレーキがききにくくなるので、急に横断し始めたりしないようにしましょう。

